

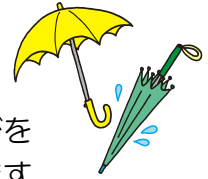


2019  
6月

# 園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園  
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

## 考える、決める、やってみる！



梅雨入りを前に、すでに夏のような暑さが続いています。本格的な夏を迎える頃はもはや災害規模の暑さになるかもしれません。園では、できるだけ適度な外遊びを取り入れ、徐々に暑さに体を慣らしていくとともに、体温調節機能を高めていきます。

さて、表題は本園のチャレンジ目標です。先月の教育・保育ビジョンの中にも明記していました。

**考える**、これからの社会は予測がむずかしい、変化の激しい時代になります。頼れるのは、親でもマニュアルでも、AIでもありません。小学校においても、「生きる力」を育むうえで、何を知っているかにとどまらず、知っていることをどう活用できるかというところにポイントを置いて指導しています。つまり、未知の状況にも対応できる力を身に付ける教育を行っているのです。親や大人が教えてあげる方が手取り早いし、わが子が困っていたら助け舟を出すのが親の務めでもあるのですが、ここはぐっと我慢して、まず子どもに考える時間と経験を与えていきましょう。

自分で車を運転した方が道を覚えやすいという経験をしたことはありませんか。分かれ道や新しい道に遭遇した時、自分の脳を働かせているからです。もっとも、最近はナビゲーションに頼り切っているので、覚えにくくなりました。おまけに古いナビは、古い道しか案内をしてくれません。

担任の指導記録には、チャレンジ目標を目指している記録が、4月から随所に記されています。例えば、「**新入園児で困っている子を見つけたら、どうすればよいか投げかける**」、「**クレバスがなくならないようにするためには、どうしたらいいか問いかけると、自分なりに考えを言ってみようとする子の姿が見られた**」など、担任は、指示を与える前にまず考えさせるようにしています。

**決める**、他者に決めてもらうのではなく、自分が決める経験を積ませます。他者に任せる方が間違いはなく、しかも楽です。自分で決めるということは、自分に責任が伴います。「だって…」と言い逃れはできません。幼児期は、自分の意思で決めてもうまくいかないことの方が多いと思いますが、ほめるべきは、決めたことが正解かどうかではなく、自分で決めることができたことです。

指導記録にも、子どもに決定権を与える場面が多く見られます。「**片付けの時間をあえて子どもたちに決めさせることで、自分たちで考えながら片付けをすることができるようにさせる**」、「**当番名を決める際、キャラクター名を巡り、男の子と女の子がもめたが、じゃんけんでポケモンと決まった。しかし、その名前を相手が受け入れて全員が納得するチーム名にできた**」

**やってみる!**、「寝ている人は転ばない」という諺があります。転ぶことを恐れず、また、転んだことを人のせいにするのではなく、自分の責任で、失敗を繰り返しながら、挑戦し続けることは子どもを大いに成長させてくれます。幼児期にこのような経験を多くした子は、将来、少しくらいの困難にひるむことはありません。また、うまくいかなくてもへこむことはありません。

指導記録を見てみましょう。「**大型積み木を使ってグループに分かれ遊んでいる時、グループ同士で積み木の取り合いが始まった。子ども同士で解決できるよう様子を見てみると、2つのグループが一緒に使えば大きなものが作れるということに気が付き、自分たちで解決することができた。**」

幼児期から、子どもが自分で考えて決める機会を様々な場面で保障し、主体性や自立心を育てることにより、物事に果敢に挑戦してほしいというのが、チャレンジ目標に込めた願いです。

(園長 寺本 明生)